

じんかん う
人間に生まれて “つながりを生きよう” 287

無慚無愧の二のみにて まことの二のころはなけれども

皆さんののおかげをもちまして今年の祠堂経を勤めることができました、こころより御礼申し上げます。本年御正当にあたる方々の追悼法要を勤めさせていただき、お一人お一人の法名を読まさせていただきました。私自身平成元年から父の後を継ぎ今年御正当年を迎えになられる方々の三十三回忌にあたります。当時のことを思い出しながら、その方々にお世話になったこと、ご家族の方がたにお世話になったことに感謝の心を込めてお勤めさせていただきました。また参詣の皆様と共に御正当にあたられる方々のことを思い出しながら今も心の中に生き続けていらっしやることを確認し合いました。

午後からは瓜生さんの法話でした。お経の中にある王舎城で王子として生まれられた阿闍世が起こしてしまった罪からどうやって救われていくのか？結果は親鸞聖人がそのことをどういただかれ、今の私に響いているのかを聞かせていただくのですが、私はその過程がとても大事に思えます。阿闍世の救われるその過程で阿闍世の心境、周りの方々の言動、そして救いの道を教えてくださるお釈迦さまの法話、罪の意識を持った阿闍世がどのように救われるのかを瓜生さんは丁寧に解きくださいました。講師は慚愧の心を起こせどもすぐに失せてしまう我々のことまで言い当ててくださいました。

彌陀回向の御名なれば

功德は十方に満ちたもう

親鸞聖人

親を殺し、仏法を誹謗する罪を犯した者は救われようのない者、だからこそどうあっても救おうと私に彌陀の名を聞かせていただいている、その功德に満ちた世界に今、私がいる。

7月 真敬寺行事予定

- 4日(日) 真宗教室 午後2時
- 7日(水) 正信偈の会 みんなで読む同朋新聞
午後1時30分
- 11日(日) 日曜学校 午前9時
- 17日(土) 定例聞法会
法話 午前 住職
午後 常本哲生 さん
- 25日(日) 日曜学校 午前9時

永代祠堂経の聞書

瓜生 崇（うりゅうたかし）さん

滋賀県玄照寺住職



お釈迦さまは「おまえの罪は私の罪だ」と仰った。「あなたの犯した罪は、私の罪でもある」、人の罪とか苦しみを全部我が身のこととしている、そういうお釈迦さまのところに、阿闍世はすぐわれていくんです。

私たちはいつも、私と他者に線を引きます、仏の覚りは私たちが

勝手に線を引いているが、そんな線は存在しないことに気づかれています。なので佛さまを無量寿とか廣大無辺と言っているのです。自分の思いが破られる世界が仏様の世界なのです、けれども私たちは中々自分の思いが破られたくないのですね。拒絶するのですね。だから私たちはずっと仏様の願いに背き続けるのです。でもそれは私に知恵がないからなのです。気づかなかった自分に目覚めるということはその自分が破れるのです。ですから阿闍世は

「今私に思いようのない思いが生まれました、どう考えても自分の中には生まれようのないものが生まれてきました」（根拠のない思い、無根の信）そして阿闍世は「世尊、もし私が、間違いなく衆

生のさまざまな悪い心を破ることが出来るのなら、私は常に無間地獄にあってはかりしれない長い間、あらゆる人々のために苦悩を受けることになってもそれを苦しみとはいたしません」つまり「みんなを助けるためだったら、私はずっと無間地獄に落ちてもかまわない」と言っただけです。これは大事件なんです。なぜかと言いますと、さっきまで、「阿闍世は地獄に落ちたくない、落ちたくないからどうしたらよいのか苦しんで悩んで、お釈迦様のところに行くときも、耆婆と一緒ににおまえと一緒になら地獄に落ちなくても良いとまで言っただけで、一緒にの象に乗ろうとしてたんですね」私にもそういうことがあります。地獄に落ちたくないです、人間生きていたらあんな

苦しいことは二度と会いたくないということがあるんじゃないでしょうか？阿闍世も同じだったんです、ここでぐるっと変わっているでしょ、「私は常に無間地獄にあつて常にあらゆる人々のために苦勞をしてもそれを苦しみとはしない」私が私がと言っていた阿闍世のところに今までにはないことが浮かび上がってきたのですね。

この時に阿闍世はすくわれたと言われているのです。

これは、阿弥陀讃の同じようなことを言っています。地獄に行きたくないといっていた者が地獄に行ってもかまわない」となるのですね。

阿弥陀様も、お釈迦さまも同じようなことを言っています。

「私はみんなを目覚ますために地獄に行つたつてかまわない」

よく仏法を聞いてくると、自分こそが親を殺してきた者だと、仏法を諍ってきた者だと、しかし、罪を犯した者が反省し呵責し慚愧したならば、自分の心が翻されてすくわれるんですね。これは阿弥陀仏の心をいただこうと求めている人には衝撃的なことだったのですね。なので親鸞聖人は、教行信証の信の巻に引用されて、五逆罪や仏法を誹謗する罪を犯した者でもこゝろ翻したらすくわれるんだと仰っています。



ところが親鸞聖人は晩年になつていくんなことが重なつてくるんです。

八十六歳の晩年に

無慚無愧のこのみにて

まことのこころはなければ
彌陀回向の御名なれば

功德は十方に満ちたもう

私は慚愧のこゝろが全くないと言われたんです。仏法を聞いていたら自分は親殺しであり仏法を諍る者だとわかつてきます、そのようなものであつても、自分の心を翻して慚愧の心をもつてすくわれていくことが出来るはずと受け止められてきたんです、ところが、私には慚愧のこゝろがないと言われたんです。自分に恥じるこころも、人に恥じるこころも、仏

にはじるころもないといわれたんです。僕らもそう思ういます。『口だけでもね』みんないうけれど口だけです。

そしてまことのころもない、真(内と外がない、同じな)ころはないと仰るのですね。地獄へしか行かない身であると仰るのですね。自分の心を翻し、慚愧の心を持つこともできない、と自覚されたんですね。

どうやってもすくわれない、身であるからこそ、彌陀回向の御名(南無阿弥陀仏)はどうやっても救われない者をどうやっても救おうと願いによって立てられた彌陀の名前です。阿弥陀の救いを拒絶する者に対してなんとか、届けよう、救おうと、言葉になった仏さまです。そのナムアマダブツが宇宙全体に響き渡るのだと、私が救われないのでみんなが救われていようとずっと響かせ続けておられるわけです。

先月の行事から

2日(水) 正信偈の会 午後二時

6日(日) 日曜学校 午前9時

6日(日) 真宗教室 午後二時

15~16日 永代祠堂経

20日(日) 日曜学校



祠堂経の荘厳

お花は法邑貞子さんが丹精込めて作られました。

ギガンジウム(紫の玉の花30本)

ユリ(大きな花の白ユリ)

外のも多数の花をいただきました



6月に入って中々咲かなかったあじさいの花も後半ごろからやっと咲き始めました。今年はいままで晴れと雨の交互で季節はよいと思っていました。気温が低いので、成長が遅れているそうです。しかし季節がくれば咲くのですね、生まれたものの必ずいつかは死す。その過程が大事なのではないでしょうか?

発行 〒939-1664 富山県南砺市竹内 440

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修



HP QR コード TEL 0763-52-0196 携帯電話 090-3760-5692 メール miyaji@p2.tst.ne.jp